

# 湘南学園だより

SHONAN GAKUEN  
138  
2026.3.7  
DAYORI

発行：湘南学園だより編集部



## CONTENTS

|                                          |                           |    |
|------------------------------------------|---------------------------|----|
| これからの社会に必要な力                             | 理事長 岩武 学                  | 2  |
| みんなが幸せになる学園をめざして                         | 学園長 住田 昌治                 | 3  |
| 新しい時代の持続可能なイベントを目指して                     | PTA会長 江利川ちひろ              | 4  |
| 学園と同窓会の協力の深さと繋がりの大切さ                     | 同窓会会長 山口 英昭               | 4  |
| 湘南学園PTAバザーからPTAフェスティバルへ                  | 後援会会長 近藤えり子               | 5  |
| 2025年度PTAフェスティバルに参画して                    | 特定非営利活動法人湘南食育ラボ 理事長 原田ゆう子 | 5  |
| 実体験からつながる学び                              | 幼稚園教諭                     | 6  |
| ユネスコスクール一年目                              | 小学校ユネスコレポート 鈴木 智洋         | 7  |
| 全学ユネスコスクール加盟に寄せて                         | 中学校高等学校校長 伊藤 眞哉           | 8  |
| 2025年度全学教研研究総会                           |                           |    |
| 子どもに寄り添い、育ち合っていく学園の学びとは～全学ユネスコスクールのこれから～ | 全学教研実行委員会                 | 9  |
| 2025年度「松ぼっくり基金」のご報告                      | 理事長 岩武 学                  | 11 |
|                                          | 学園長 住田 昌治                 |    |
| 学校法人からのご報告                               |                           | 12 |



これからの社会に必要な力

理事長 岩 武 学

湘南学園に関わるすべての皆様、今年度も湘南学園にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ご卒業の皆様、おめでとうございます。

おかげさまで湘南学園は92周年を迎えることができました。今年度は90周年でつながり続けたことを大切にしながら新たなつながりも広がった一年でした。100周年という大きな目標に向かって、一歩ずつ確実に歩みを進めていきたいと思えます。

▲社会の変革

昭和に生まれた私は大きな変革を2度体験しました。

ひとつは携帯電話とEメールの登場です。携帯電話でいつでも本人と直接連絡ができるようになり、待ち合わせのすれ違いや、友人の家に電話したときのドキドキ感は過去の文化となりました。また、Eメールで世界中のひととのコミュニケーションが可能になりました。急用以外はメールで済ますことができ、記録としても残せるようになりました。「遅刻や欠勤の連絡をメールで送るとはけしからん」という感覚は古いものと

なり、逆に「電話する時間は人の時間を奪う行為」と捉える人もいるほどです。

もうひとつは、スマートフォンの登場です。パソコンで行っていたことがあの小さなデバイスの中で完結するようになり、逆にパソコンを使えない若者が多くなりました。おサイフケータイなどの機能も追加され、もはやスマホなしでは生活がままならないほどです。また、動画メディアの登場で、私たちの可処分時間の使い方も大きく変わりました。

大きな変革の3度目と感じているのがAIの登場です。検索の制度は従来の検索から格段に上昇、イラスト作成や写真の加工、動画の作成まであつという間にやってくれます。文章の誤字脱字チェックはもちろん、契約書等のひな形作成など、定型のものであれば、ほぼ間違いのないものを作ってくれます。大学や大学院入試の場では「AIによる代筆」をどう見抜くか？が大きな課題となつています。従来の新技術は年単位での進化でしたが、AIは月単位での進化を遂げているそうです。現在の湘南学園生は、まさにこの先のAI社会を生きていく人たちなのです。

世界時価総額ランキングTOP20

| 順位 | 平成元年(1989年)        | 国 | 平成30年(2018年)    | 国 |
|----|--------------------|---|-----------------|---|
| 1  | NTT                | ● | マイクロソフト         | ● |
| 2  | 日本興業銀行             | ● | アップル            | ● |
| 3  | 住友銀行               | ● | アマゾン・ドット・コム     | ● |
| 4  | 富士銀行               | ● | アルファベット(Google) | ● |
| 5  | 第一勧業銀行             | ● | トヨタ             | ● |
| 6  | IBM                | ● | バークシャー・ハザウェイ    | ● |
| 7  | 三菱銀行               | ● | フェイスブック(Meta)   | ● |
| 8  | エフエフ               | ● | ジョンソン・エンド・ジョンソン | ● |
| 9  | 東京電力               | ● | JPMorgan Chase  | ● |
| 10 | ロイヤル・ダッチ・シェル       | ● | ビザ              | ● |
| 11 | トヨタ自動車             | ● | エクソンモービル        | ● |
| 12 | ゼネラル・エレクトリック       | ● | ウォルマート          | ● |
| 13 | 三井銀行               | ● | エヌティットヘルスグループ   | ● |
| 14 | 野村証券               | ● | バンク・オブ・アメリカ     | ● |
| 15 | 新日本製薬              | ● | アマゾン・ドット・コム     | ● |
| 16 | エーティーアンド・ティー(AT&T) | ● | サムスン電子          | ● |
| 17 | 日立製作所              | ● | 中国工商银行(CIC)     | ● |
| 18 | 松下電器               | ● | プロクター・アンド・ギャンブル | ● |
| 19 | フロッピング・モリス         | ● | フェリス・ファーズ       | ● |
| 20 | 東電                 | ● | インテル            | ● |

▲これまでとこれから

「真面目」「勤勉」「素直」と聞いて何を思い浮かべられるでしょうか？私は「日本人の良さ、国民性」が浮かびました。

それらは、戦後の復興、高度経済成長、ジャパン・アズ・ナンバードンと呼ばれる時代の源であったと思います。しかし、源われた30年と言われる期間を振り返ると、企業世界時価総額ランキングTOP20のうち、平成元年は日本企業の数で14社でしたが、平成30年では日本企業は1社もなく、トヨタ自動車の26位が最高位という状況です。日本人の良さ、国民性がグローバル社会の中で通用しなくなつていくことを表しているようでありませぬ。さらに「真面目」「勤勉」「素直」はAIの最も得意なことであり、加えて「正確さ」を兼ね備えています。インプットしたものをア

ウトプットする能力において、人間はAIに敵いません。これからの社会を生きていくには、「AIにできない力」が必須となります。0から1を生み出す力です。自分で考え、自分で決めて、行動し、失敗したらやり直す力、それは人間にしかできないことだと思います。学校はすべての子どもが安心して過ごせるという土台の上で、成功や失敗、トラブルでさえも学びに変え、生きて活躍する力、「人間力」を育む大切な場所です。学校に関わるすべての大人が当事者となつて子どもたちを見守り、未来の社会へとつなげていくことが大切だと考えています。

▲生きづらい社会

1月29日に2025年の子ども自殺者数が最多だった2024年の529人を上回る532人と発表されました。大人も含めた全体の自殺者数は19,097人で、昨年より1,223人減っているのにもかかわらず、子どもの自殺者数が増えています。この事実が子どもにとって生きづらい社会であることを示して

▲最後に

今年度も大変お世話になりました。湘南学園は一人ひとりがつくる学校です。PとTが立場を超えて協働し、皆様と一緒にいることにチャレンジしていきたいと思つていきます。次年度も湘南学園をよりよくお願いいたします。一緒に湘南学園、未来の社会をつくつていきましょう。





## みんなが幸せになる 学園をめざして



学園長 住田 昌治

### I 「いってきます」と 「ただいま」の 間にあるもの

「いつてらっしゃい」と送り出し、「おかえり」と迎える毎日。その間にある学校という場所が、子どもたちにとって、心から安心できる場所でありたい。

教育の目的は、子どもたちが「自分は自分のままでいいんだ」と自分を肯定し、これから先の長い人生を、自らの足で幸せに歩いていく力を育むことにあります。学校は、そのための「心のエネルギー充電所」のような場所だと考えています。



しかし、日々の生活を振り返ると、そこには理想だけでは語れない葛藤があります。学校生活の中で周囲との差に不安や孤独を感じてしまう子ども。わが子の将来を思うあまりに焦りや悩みを抱えてしまう保護者の皆様。そして、多忙な業務の中で余裕を失いかける教師。誰もが「子どもの幸せ」を一心に願っているはずなのに、なぜその過程で、誰かが苦しさを生きづらさを感じてしまう場面が生まれるのでしょうか。そんな切ないすれ違いが、今の学校のあちこちで起きているような気がしてなりません。

### II 「幸せ」のイメージ

こうした「すれ違い」が起きてしまう理由の一つに、私たちが無意識に抱いている「幸せ」のイメージのズレがあります。子どもたちは「今、この瞬間を自分らしくありたい」と願います。一方で保護者の皆様は、変化の激しい社会を生き抜くために「将来に役立つ力を、一つでも多く身につけてほしい」と願われるでしょう。そして私たち学校は、集団生活における「安全と確実な成長」を優先することがあります。

これらの願いが、対話されないまま進んでしまうと、子どもは大人の期待の間で揺れ動き、大人同士も「学校は分かってくれない」「家庭での指導が足りない」といった不信感を抱いてしまうことになりかねません。私たちは、幸

せの形が一つではないことを認め合いながら、子どもを真ん中に置いた「対話」をこれまで以上に大切にしたいと考えています。

### III 「失敗しても大丈夫」

子どもたちが、自分の持つている可能性を広げるために、欠かせないものがあります。それは、心の底から「ここは安心だ」と思える場所であることです。「失敗しても、みんなが笑わずに受け止めてくれる」「困ったときに『助けて』と言えば、誰かが手を差し伸べてくれる」。そんな安心感があつて初めて、子どもは挑戦しようと思えます。学びの本質は、効率よく正解に辿り着くことではありません。たくさん間違えて、たくさん寄り道をした先にある「自分で見つけた気づき」こそが、一生の宝物になります。私たちは、失敗を叱る場所ではなく、失敗を「面白いね、次はどうしようか」と一緒に面白がり、新たな挑戦をする、そんな温かな空気を学園の中に広げたいのです。



### IV 保護者の皆さんへ

保護者の皆様にお伝えしたいことがあります。それは「子どもを幸せにしたいなら、ま

ずは大人自身が幸せでいてください」ということです。保護者の皆さんが疲れ切つて、笑顔が消えてしまうと、子どもたちはそれを敏感に察知します。「自分が頑張らないと、お父さんやお母さんが悲しむ」と、小さな胸を痛めてしまうこともあるのです。

だからこそ、たまには息を抜いて、自分の好きなことをしたり、ゆっくり休んだりすること。それは決して「わがまま」ではありません。先生たちも同じです。先生が元気で楽しそうに授業をし、自分自身の人生を謳歌している姿を見せること。それが、子どもたちにとって「大人になるって楽しそうだな」という何よりの希望になります。大人が幸せで、心が「ごきげん」な状態にいることは、子どもの幸せを作るための、最も大切な「土台」なのです。

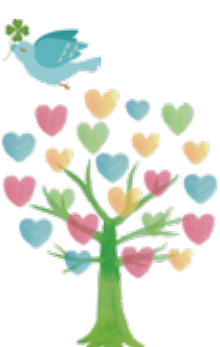
### V ユネスコスクール として

湘南学園はユネスコスクールとして、地域や世界の仲間とつながりながら、持続可能な未来をつくる学びを進めています。しかし、グローバルな視点を持つ前に、まず足元のこの学園という場所が、誰にとっても自分らしくいられる「居場所」でなければなりません。学校は、先生が子どもに一

方的に教える場所ではありません。子どもも、保護者の皆様も、地域の方も、そして先生も。みんながそれぞれの立場で学び合い、支え合いながら、一人の人間として共に育っていく「共創（共に創る）」の場所です。

学校は、もっと保護者の皆さんとお話しする時間を大切にしたいと思っています。「最近、こんなことで悩んでいるんです」「学校のここがちよつと心配で」。そんな小さな声を、どうぞ私たちに届けてください。一緒に悩み、一緒に考え、一緒にわが子の成長を喜ぶ。そんな「育みのパートナー」として、手を取り合っていくのが湘南学園のあり方です。

「みんなが幸せになる学園」への道のりは、時に険しく、正解のない問いの連続かもしれません。しかし、一人で頑張るのではなく、みんなで支え合っていけば大丈夫です。これからも、学園の教育活動へのご理解と、何より皆様ご自身の幸せを大切にされる歩みを、心よりお願い申し上げます。









## 実体験からつながる学び

幼稚園教諭



湘南学園幼稚園は、創立当初から大切に紡がれてきた子ども達主体・あそび中心の保育活動が認められ、2025年2月に幼稚園として神奈川県初のユネスコスクールに認定されました。

ユネスコスクール加盟1年目である今年度は「食育」と「地域とのつながり」を重点目標に据え、子どもたち一人ひとりの興味や関心を大切にしながら、年間を通して多様な教育活動を行ってきました。実体験を通して「知る・感じる・考える」とを大切にし、日々の生活や遊びへとつながる学びを育んできました。

### ☆もやしの栽培



年少児は、年長児が畑で野菜を育てる姿に刺激を受け、自分たちでも育ててみたいという思いから、もやしの栽培に挑戦しました。

種に触れたり、匂いを嗅いだりしながら観察を重ね、毎日水を替えて世話をする中で、芽が伸びていく様子に大きな関心を寄せていました。

収穫したもやしを炒めて食べると「おいしい」と喜び、野菜が苦手だった子ども自信を持って口に作る姿が

見られました。また、育てたもやしを土に植えると枝豆になることを知り、実際に植えてみる経験もしました。思うように育たない難しさを感じながらも、「なぜだろう」と考える姿が見られ、食材や植物への関心が日常生活へと広がっています。



### ☆ちいさな探検隊



年中児は「探検隊」と称し、幼稚園周辺や学園内、商店街などを自分



の足で歩いて巡る活動を年間を通して行いました。

郵便ポストへの投函体験では郵便配達員の仕事を知り、商店街では魚屋・米屋・豆屋を訪ねました。

魚屋の方には幼稚園で鮭をさばく様子を見せていただき、その場で炭火焼きで味わう経験もしました。



米屋ではもち米とうるち米の違いを教わるなど、地域の方々との関わりを通して多くの学びを得ました。歩く経験を重ねる中で交通ルールへの意識も高まり、身近な自然や季節の移り変わりにも気づくようになっていきます。

### ☆地引網漁から広がる世界

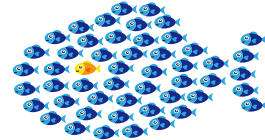
年長児は、湘南の地域性を生かし、鶴沼海岸で地引網漁を体験しました。

実際に網を引き、色々な魚に触れた経験は強い印象を残し、感動と驚



きに満ちた体験となりました。その後の遊びでは魚づくりや人形劇へと発展し、海洋ごみ問題にも関心をもち、自分たちができることを話し合う姿が見られました。

また、造形展では「海」をテーマに作品づくりを行い、本物を見たいという思いから魚屋を訪れるなど、学びがさらに深まりました。



来年度はユネスコスクール加盟園としての2年目を迎えます。今年度積み重ねてきた園内研修を基盤に、外部研修や研究会にも参加し、学びを広げていきたいと考えています。子どもたちが実体験と対話を通して世界への関心を深め、豊かな生活を送れるよう、今後も教育活動の充実に努めてまいります。

# ユネスコスクール一年目

小学校ユネスコレポート 鈴木智洋

◆一年生

小学校は、これまで積み重ねてきた体験的な学習や地域とのつながりを大切にする教育姿勢が評価され、ユネスコスクールの認定を受けました。これに伴い校内には「ユネスコレポート」という担当部署を設けて、活動の推進と下支えを担っています。

ユネスコを意識することによって、より豊かな展開が見られた今年度の取り組みを簡単に紹介します。



学校内にある「学びの森」を起点に、季節ごとの自然に親しむ活動を行いました。生きもの探しや植物観察、アサガオや藍の栽培を通して、命を育てる喜びや自然の不思議さを感じてきました。収穫したサツマイモを味わったり、つるや木の実を使った工作を

◆二年生

さまざまな野菜の苗を育てる栽培活動に取り組み、成長の様子を観察しながら収穫の喜びを分かち合いました。また、年間を通して哲学対話を行い、正解のない問いについて考え、友だちの考えを聞き、自分の思いを言葉にして伝える学習を重ねてきました。異なる考えを尊重し合う姿勢を育むことができました。



◆三年生

「海の学習」を柱に、自然環境と人との関わりについて学んできました。真鶴での「海の学校」や江ノ島での磯観察、片瀬漁港見学や地引き網体験、かまぼこ作りなどを通して、海の生き物の多様性や、海と森、人のくらしが深く結びついていることを体感的に学びました。学んだ内容は、興



味をもったテーマごとに調べ、まとめ、発表しました。



◆四年生

三年生の学びをふまえ、「水」をテーマにした探究学習を行いました。富士山周辺での「山の学校」では、

水を育む森を実際に歩き、見て、感じることで、水の循環や自然のつながりを体感しました。その体験をもとに、社会科では水環境やごみ・資源の問題をSDGsの視点から学び、探究学習として自らの関心に基づいて調べ、まとめました。

また、「自分たちの理想の街」をテーマにした問題解決学習では、食品ロスや環境問題、平和や異文化理解などの地球規模の課題を、自分たちの生活と結びつけて考えました。スクールランチの残飯を教材に食品ロス削減について学び、行動につなげました。

さらに「世界教師デー」に合わせて、子どもたちが担任の魅力や努力をまとめ、感謝の思いを現する活動も行いました。



## ◆五年生

社会科と関連づけながら「食」をテーマに学習を進めてきました。相原農場のご協力のもと、有機栽培による米づくりの田植えや稲刈りを体験し、自然と共生する農業の価値や、その大変さを学びました。また、三崎漁港見学を通して、水産業の現状や未来について理解を深めました。

一月には、新潟県十日町市松代で三泊四日の「雪の学校」を実施し、現地のユネスコスクールであるまつのやま学園との事前・事後交流を含めた学校間交流を行いました。



ました。雪国のくらしや自然環境、地域の文化に触れ、多様な生き方への理解を深めました。

◆六年生

これまで積み重ねてきた体験的な学びを、奈良・京都への修学旅行に生かしてきました。事前学習をもとに班別行動を行い、自ら計画し、考え、学ぶ主体的な学習を行いました。また、国際津



波デーに合わせて防災について調べ、新聞形式にまとめて発表しました。



◆全校

日本各地の民舞を学ぶ「たいいく表現まつり」や、異学年で活動する「なかよし班」の取り組みは、本校の文化として大切にしていくものです。年齢や背景の違いを越えて協力し合える環境は、ユネスコスクールとしての学びの土台となります。



子どもたちが、自分のまなざしで世界を見つめ、社会の中でよりよく生きようとする力を育んでいけるように、今後もアップデートを重ねていきます。



# 全学ユネスコスクール 加盟に寄せて

中学校高等学校校長 伊藤 眞哉

## ● 幼・小がユネスコ スクールに加盟

昨年の春、湘南学園の幼稚園・小学校のユネスコスクールへの加盟が正式に認可されました。すでに二〇一三年からユネスコスクールとしての活動を続けてきた中高としても大変うれしいニュースです。三十八年間この学園で働いてきた教員のひとりとしても、我々の目指してきた教育にひとつの具体的な道すじをつけることができたと、確かな手応えを感じています。これを機会に各パートの教育内容をさらに有機的に結びつけていくような試みが学園内のあちこちで生まれてくることを期待しています。

## ● 八十年前の反省から

ユネスコは教育や科学、文化の分野での国際的な協力と交流を通じて、平和や人類の福祉を促進させることを目的に設立された国際連合の専門機関です。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という一節から始まるユネスコ憲

章の前文には、互いの文化に対する無理解と偏見を背景に繰り返されてしまった二度の世界大戦への深い反省が込められているのです。力で相手を屈服させるのではなく、きちんとした話し合いを通して問題を解決に向けていくこと。そのために、まずはお互いの違いを知り、その上でお互いを認め合い、受け入れ合うこと。そういう間口の広い子どもたちを育てていくのがユネスコスクールの基本的な役割だと考えています。



PTA文化事業「ノーベル平和賞受賞・日本被団協の和田征子さんを迎えて～あの日を知り、未来を考える～」

## ● 中高が大切に してきたもの

中高が一九九〇年度から三十六年間続けてきた総合学習（当初の呼び名は「特別教育活動」でした）は社会に対す

る幅広い視野を身につけていくことを目的に始まった活動でした。教科書や問題集から得られる学びを超えて、実社会で活躍するたくさんの方々の方々との交流を通して自ら感じ取り、つかみ取ってくる学びは、生徒の皆さんの自己理解や他者理解、さらには周囲の物事に対する興味・関心の枠を広げ、将来の自分についての考えを深めていくことに貢献していると自負しています。

一方、中高が大事にしている生徒主体の行事運営に関しても、互いの考えを出し合い、異なる意見に関しては相互に折り合いをつけながら、協力し合って物事を進めていくという貴重な経験ができていくと思えます。特に、ひとつの行事が終わるたびに実行委員の皆さんと一般生徒の皆さんとの間で交わされる感謝のこ



体育祭



高校1年生有志の1班「SDGs QUEST みらい甲子園」神奈川県大会に応募し、全246チームの中からファイナリスト12チームの一つに選出

とばの数々には、お互いを認め合い、受け入れ合おうとするストレートな思いが込められています。そして、そんなやりとりを積み重ねていくからこそ、自分と周囲の人たちをつなぐ深い信頼というものが生まれていくのだと思えます。

## ● 異文化理解が 間口を広げる

中高六年間を通して幅広い視野を身につけ、周囲の人たちと協力し合って新たな物事を生み出していく経験を重ねながら、これからの社会を生きる若い世代の人たちにはより早い段階で世界の広さを感じ、様々な文化的背景を持つ人たちと交流していける機会を設けたい：：そんな願いをもとに中学三年生の研修旅行として現在はオーストラリアに出かけています。

大自然の中でのファームステイや現地校に通う同世代の学生さんたちとの交流は、こ



中3オーストラリア研修旅行



オーストラリア研修旅行学校交流

の狭い日本においては決して体験できないことばかり。そして、そういうふうな文化の違いを自分たちのことを受け入れてもらえた喜びを知った人は、きつといつかは別の誰かのことをあなたたかく迎え入れてあげたいと思ってくれるのではないでしようか。

こうした経験がその人自身の間口を将来的に大きく広げていくことにつながっていくけば、とつても素敵ですよ！

2025年度全学教研総括

子どもに寄り添い、

育ち合っていく学園の学びとは

～全学ユネスコスクールのこれから～

全学教研実行委員会

1 実行委員会のねらい

今年度の全学教研実施にあたり、特に次の目標に尽力しました。

●「子どもの発達」についての理解を深め、教員の中で改めて「子どもは成長する存在であり、それを信頼して関わる」という「子ども観」を養うこと。

●そのことを通じて、「教師」という仕事のやりがいや魅力を再認識し、「大変な毎日だけど、また明日から子どもに向き合おう」と先生方に感じてもらえる機会にすること。

先生方のアンケートをベースに、今年度の全学教研の果たした価値と到達について振り返ります。

2 教員という職業の

「価値」を確認しあえた  
全体講演

全体会の講演者は、大阪の私立学校で長年勤務されている藤田隆介先生でした。

アンケートでは、「子どもの成長と発達を信頼すること」・「表出部分に目を奪われて、隠れている子どもたちの発達要求を見逃さない」・「社会情勢や、生徒の置かれている背景を知ることが大切」・「教員が大変だけどいいなと思えた」などの積極的な感想が寄せられました。

●「教えることは希望を語ること。学ぶことは誠実を胸に刻むこと。」藤田先生の生徒への向き合い方が物語っていました。



●個別の子どもの特性に着目するのはもちろん、子どもたちが置かれている社会的状況、集団として育つ条件がどうだったのかなど、広い視野で捉える必要があることに気づかされました。

●生きづらさを抱える生徒たちに寄り添い、その成長を信じて関わり続ける中で、子ども達が互いを支え合い育ち合う姿を熱く語っていただき、誰一人取り残さない教育を決して手放してはいけないという気持ちを新たにしました。

●教員という仕事は色んな意味で「慣れ」との闘いかなと自分は思っているのですが、自身よりも大先輩であろう年代の方が、あんなにも熱意をもって教員という仕事と日々向きあっている姿が見られてとても励みになりました。まだまだ分からないことだらけですが、「生徒は教師を選べない」からこそ、彼らにとってなにかプラスになれるように日々頑張りたいと思いました！

3 湘南学園の教育の

「土台」を示した  
幼稚園実践レポート

総合学園の「土台」となる幼稚園の実践発表では、「自分の気持ちを素直に言えること・聞き合えることができる場」があれば、幼稚園児であっても、これだけの成長が見られるという驚きと敬意の声が寄せられました。「子どもを信頼する・話を聞く・向き合う」ことを教員が大切にすることで、子どもたちは豊かに成長していくという「道しるべ」を全パートの教職員に示す貴重な報告でした。



実行委員会では、このように育ってきた園児が進学する小中高が、「子どもたちの声に耳を傾ける」ことがどこまでできるかが問われてくるという話も話し合いました。また、これまでは経営の観点から語られることが多かった、「幼稚園から小学校への内部進学者を増やす」という課題も、全学ユネスコスクールの大切な「土台」を持つ子ども

たちを多く迎え入れるという教育的価値からも重要になっているとふり返りました。

4 具体的な実践で

小中高の  
「教育のつながり」を  
模索しあった分科会

今年度はコロナ禍以降実施していなかった分科会を復活させることにこだわりました。

今年度の実行委員会では、「参加される先生方1人1人の要求により近い内容で学びあえる」・「これまで積み上げてきた『知り合う』という段階から、『深め合う』ステージに発展させていこう」という狙いを持ち、午後3つのテーマの分科会を設定することとしました。

○分科会①

「教科教育・学力形成」

中 高 ▼ 「中高の学力形成とキャリア形成」

松林 俊平 先生

小学校 ▼ 「自立した書き手育てる『作家の時間』」

小森 麻友子 先生

○分科会②

「発達に特性のある子どもに寄り添う」

中 高▼「発達に特性のある

生徒・保護者への組織的対応と、子どもたちの姿」

天久 花華 先生

小学校▼「様々な子どもたちに寄り添って歩んだ、

小学6年生の学年づくり」

武藤 史也 先生

### ○分科会③

「ユネスコスクールの教育実践」

中 高▼「今年度からスタートした、高2の個人

探究3講座の授業」

末廣 友里 先生

小学校▼「小学校5年生の社

会・総合）『食』から始まる学び合い」

星野 嘉住 先生

感想には、「他パートの先生も苦労されながら、教育に願いを持って子どもたちに関わっておられることがよくわかった」というものや、「他パートの取り組みを知ること、自分たちのパートは何に取り組みべきかが見えてくる。今年度は討議の時間もあり、聞きっぱなしではなく『考えあう』時間もとれたのでよかったです」などがありました。



ディスカッションの様

総合学園として、幼小中高が教育でさらにつながっていくには、「どのパートも『課題』はあるが、それでもわたしたち『湘南学園の教員』は、皆が子どもたちや教育に向き合って実践している」という確信を1人1人の中に積みあげていくことが必要です。そしてそれは、具体的な先生方1人1人の教育に対する考え方や実践を知ることや、パートを越えて教育の取り組みを語り合うことを通して育まれていきます。「感想交流でもっとお互いのパートについて意見交換ができるようになり

たいと思いました。」という感想もありました。「突っ込んだ議論」を行っていくには、他パートの教育実践に対する理解が育まれているという前提が必要になります。今年度分科会を設定したことで、その一歩を築くことができたと思っています。

「発表者になることで、今まで自分が実践してきたことをまとめる良い機会になった」という感想をいただきました。教師が自身の教育実践をふり返り、文章化し、報告し、他の先生方から複合的な視点で評価をもらう「レポーター報告」は、「流れすぎていく」実践の経験や自分の軸となった考え方を「蓄積」するこ

## 5「皆で集い、学びあう」 全校教研の価値は、 学園において ますます重要に

幼小中高の全パートがユネスコスクールに加盟し、「総合学園としてのつながり」を強めていこうという気運が、今学園全体に広がっています。「皆で集い、学びあう」全校教研は約15年にわたって、「学園の教育の幹」を「実践の蓄積から」見つけていく重要な役割を担い続けてきました。

「『質の高い教師』とは何か」という本で、著者の福井雅英さんはこう書いておられます。

「『教師は現場で育つ』ということの眼目は、子どもと触れ合いながら実践の中で育つということとです。専門的技量を実践の現場で高め豊かにするには、『実践しつづ考える』、『交流を通してふりかえる』というような省察が必要とす。

全学の教職員が一堂にあつまり、「全体講演や分科会の発表を聞いたり、自分自身がレポーター報告をしたりすることを通して、自身の教育実践を改めてふり返って見つめなおす機会となる」・「全学の教職員の交流の



ランチも貴重なコミュニケーションタイムです

中でお互いの実践に対して意見を述べたり深め合える」全校教研は、まさに福井先生の述べているような機会であると考えられます。また、現場の先生たちが、「今何を学び・考えあいたいのか」という議論を通して「手づくり」でつくっていくことも、全校教研の価値をさらに高めています。

学園にとって「宝物」のようなこの全校教研の価値を、学園全体で重要なものとして位置づけなおし、様々な先生たちが実行委員やレポーターを担う中で、より豊かなものに発展していくことを願っています。そしてそのために、全校教研への学園執行部のこれまで以上の協力もいただきたいという実行委員からの要望も添えて、今年度の全校教研の総括とします。



# 2025年度「松ぼっくり基金」のご報告

理事長 岩 武 学  
学園長 住 田 昌 治

2019年10月に基金を創設して以来、現在まで大変多くの方からご寄付をいただいております。これまでにいただきました寄付金総額は、2025年12月末日現在で60,636,395円に達しました。心からお礼を申し上げます。ご寄付をいただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。また、ご寄付をいただいた方々の意向を踏まえ、幼稚園、小学校、中学校高等学校における活用の状況を一部のご紹介となっておりますがご報告申し上げます。

**幼稚園** 子ども達が使うおまごと用のキッチンを3セット購入させていただきました。おうちごっこやお店屋さんごっこなど様々なイメージを膨らませながら、みんなで楽しみたいと思います。



**小学校** 小学校は行事で使用するための大型テントを3台購入させていただきました。




**中高** ハンドボール部 テント・倉庫 関東大会出場支援等



## 湘南学園PTAからの寄贈のご報告

このたび、災害対策備蓄品の充実化を図る目的で、全学園園児・児童・生徒・職員の「3日間分の使い捨てトイレ」、「災害備蓄用生理用品」をPTA防災活動支援費より購入のうえ寄贈いただきました。大切に活用させていただきます。ありがとうございました。



**ありがとうございました!**

|     |                  |          |
|-----|------------------|----------|
| 製品目 | BOS非常用臭わないトイレセット | 22,200回分 |
|     | 災害備蓄用生理用品        | 1,290個   |
|     | ささっとトイレ          | 1,000回分  |
| 金額  | 1,592,651円       |          |

## 松ぼっくり基金 寄付者芳名録

**\* 一般寄付 \***  
200,000円 廣島 純 様  
100,000円 茶野 倫太郎 様  
羽生 英正 様  
株式会社 12 様  
50,000円 大山 裕美 様  
清水 直樹 様  
高藤 忠茂 様  
李 田 茂 様  
30,000円 今井 弥生 様  
野尻 賢哉 様  
原 正樹 様  
幼17,小22,中高10回生一同 様  
25,000円 滝田 賞一 様  
23,818円 1995年卒業生 様  
20,000円 川崎 和美 様  
飛田 一樹 様  
星 憲幸 様  
吉沢 勝美 様  
渡辺 小百合 様  
10,000円 荒井 理史 様  
関根 吉晃 様  
田村 千尋 様  
1,667円 武井 正兵 様

**\* 学園高校生の海外留学支援 \***  
10,000円 清水 孝一 様  
**\* 学園中高生の部活動支援 \***  
200,000円 株式会社平賀工業 様  
100,000円 大内 康行 様  
平尾 卓也 様  
50,000円 後藤 康太 様  
同 窓 会 様  
40,000円 荒井 理史 様  
30,000円 丸田 香緒里 様  
南 共代 様  
25,000円 滝田 賞一 様  
20,000円 河村 知高 様  
10,000円 安部 香央里 様  
稲川 あや 様  
井上 直樹 様  
神谷 高雅 様  
小金沢 裕美子 様  
清水 啓介 様  
高清水 眞二 様  
高橋 新作 様  
土居 健 様

中川 丈瑠 様 60,000円  
仲野(加藤) 万須実 様  
古川 聡 様  
星 寄洋典 様  
堀田 暁伸 様  
町田 和晚 様  
三ヶ尻 道軌 様  
5,000円 石津 貴士 様  
石原 宏樹 様  
奥田 祐希 様  
押本 快 様  
小田 一臣 様  
小野塚 菜々 様  
木田 淳司 様  
黒田 祐司 様  
小山 創也 様  
杉山 ゆふ 様  
高木 陽輝 様  
高清水 眞太郎 様  
山本 祐司 様  
吉村 愛里 様  
和田 隼 様

**\* 学園小学校の教育環境支援 \***  
360,000円 志賀 勇太 様  
100,000円 大神 淳郎 様  
瀬戸川 恵子 様  
脇田 淳一 様  
株式会社山建 様

原嶋 崇太 様  
50,000円 鈴木 亮平 様  
1,667円 武井 正兵 様  
**\* 学園幼稚園の教育環境支援 \***  
30,000円 星 憲幸 様  
2,274円 卒園を祝う会 様

**\* 特別教職員採用・教職員研修支援 \***  
1,666円 武井 正兵 様  
**\* その他 \***  
1,000,000円 鷲尾 和行 様  
**\* 記入なし \***  
100,000円 鈴木 賢治 様  
以上 79件  
3,806,092円

| 使 途             | 件数  | 金額        |
|-----------------|-----|-----------|
| 一般寄付金           | 24  | 1,000,485 |
| 学園高校生の海外留学支援    | 1   | 10,000    |
| 学園中高生の部活動支援     | 40  | 880,000   |
| 学園小学校の教育環境支援    | 7   | 871,667   |
| 学園幼稚園の教育環境支援    | 2   | 32,274    |
| 特別教職員採用・教職員研修支援 | 0   | 1,666     |
| その他             | 1   | 1,000,000 |
| 記入なし            | 1   | 10,000    |
| 小 計             | 76  | 3,806,092 |
| 承諾しない           | 59  | 1,772,500 |
| 合 計             | 135 | 5,578,592 |

※使途が複数の場合は、件数は記載順でカウント、寄付金については均等に分配

## ●●●●●●●●●● 学校法人から ●●●●●●●●●●

### ●理事会報告

これまでに開催された理事会についてご報告いたします。

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 第1回定例理事会          | 4/19  |
| 第1回常任理事会・第2回定例理事会 | 5/24  |
| 第3回定例理事会          | 6/14  |
| 第4回定例理事会          | 7/26  |
| 第5回定例理事会          | 8/23  |
| 第6回定例理事会          | 9/20  |
| 第7回定例理事会          | 10/18 |
| 第8回定例理事会          | 11/22 |
| 第2回常任理事会・第9回定例理事会 | 12/20 |
| 第10回定例理事会         | 1/24  |

### 主要な議題・報告等

- ・副理事長の選任について
- ・常務理事の選任について
- ・理事職務分掌について
- ・2024（令和6）年度事業報告書の確定について
- ・2024（令和6）年度決算書の確定について
- ・監事候補者の評議員会への提案について
- ・中高メディア棟ロスナイフィルター・エレメント交換業者決定について
- ・中高近隣境界部仮囲い・万年塀更新工事業者決定について
- ・ハラスメント等防止委員会規程の新設について
- ・DXハイスクールの認定について
- ・中高メディア室機器のリプレースについて
- ・記念館・中高ホールLED工事業者決定について
- ・資産運用規程について
- ・育児・介護休業等に関する規則改正について
- ・第二松が岡邸の解体・補修について
- ・2026年度予算編成方針（案）について
- ・次期学園長の選任について
- ・理事・評議員選任規程の改正（案）について
- ・SSW（スクールソーシャルワーカー）の雇用について
- ・2025（令和7）年度補正予算編成（案）について
- ・湘南食育ラボ収支報告



### ●評議員会報告

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

|         |      |
|---------|------|
| 第1回評議員会 | 4/12 |
| 第2回評議員会 | 6/14 |
| 第3回評議員会 | 9/20 |
| 第4回評議員会 | 1/24 |

### 主要な諮問事項等

- ・理事の選任について
- ・寄附行為の改定について
- ・監事の選任について
- ・2024（令和6）年度事業報告書について
- ・2024（令和6）年度決算書について
- ・理事・評議員選任規程改正（案）について
- ・2025（令和7）年度補正予算編成（案）について
- ・湘南食育ラボ収支報告



## ●●●●●●●●●● 学園所有地の売却につきまして ●●●●●●●●●●

学園では昭和46年に那須ハイランド別荘地内（栃木県那須町）の土地を購入し現在まで保有し続けてまいりました。総面積は四区画で約3968平米となりますが、学園として有効に活用してきた実績がなく、今般売却の意思を学校法人として決定しました。

つきましては、学園関係者の皆様に広くご案内し、有効に活用いただける方に購入いただけることを望んでおります。ご意思のある方は、法人事務局長青木までご連絡を頂きたくお願いいたします。連絡先は、0466-23-6611（代表番号）です。

## ●●●●●●●●●● 事務局からのご連絡 ●●●●●●●●●●

### ●住所変更のお手続きについて

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

### ●登下校・登降園時の自家用車送迎禁止について

湘南学園では、園児・児童・生徒の登下校・登降園にあたっては、自家用車での送迎は原則禁止とさせて頂いております。園児・児童・生徒の安全確保はもとより、近隣の住民の方等への安全配慮もご考慮いただき、改めてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、園児・児童・生徒の病気や怪我等の特別な事情で止むを得ない場合は、必ず事前に学校（園）にご連絡くださいますようお願い申し上げます。